



佐藤 稔 議員



「ひきこもり」への支援強化について

問 ひきこもりの当事者や家族を支援する家族会連合会が行った実態調査では、家族全体の高齢化に伴う「親亡き後の生活への不安」や「社会との接点」などについて、当事者同士で情報交換ができる「ピアサポート活動」への強い関心が寄せられているが、市の今後のひきこもりへの支援強化について伺う。

答 現在、市では家族会は実施

しているが、ピアサポート活動は実施していない。家族会では情報交換やひきこもりの対応方法、経験者から体験談を聞く機会も提供している。ピアサポート活動は、ひきこもりの状態から回復を促す上で非常に有効な支援方法であると認識している。一方で、人材と体制の確保という課題もある。適切な運営方法について、改めて研究していく。

中学1年生への「サードブック事業」について

問 読書活動推進事業では、子どもの成長に合わせた読書のきっかけ作りの重要性を考慮し、小学1年生への「セカンドブック事業」の次に、中学1年生への「サードブック事業」が必要と考えるが、市の考えを伺う。

答 中学1年生は、心も身体も急激に成長し、多感な時期になる大切な節目であると認識している。サードブック事業の実施については、市ではセカンドブック事業をスタートさせたばかりであり、セカンドブック事業の検証を行い、読書活動推進の意義も踏まえ、今後の課題としていく。他の自治体の事例を参考にしながら、中学生の読書意欲を高める取り組みについて調査研究し、サードブック事業の実施についても研究していく。



これまで推進された読書活動



阿久津 佳子 議員



重層的支援体制について

問 不登校児童生徒において、①不登校児童生徒の全体実数、②確かな学びの保障、次に、ヤングケアラーが疑われる児童生徒において、③児童生徒の実数、④学校の支援体制や初動、⑤ケアが必要な保護者等の支援CW^{※1}・SW^{※2}の介在、⑥課題解決に欠かせないSC^{※3}やSSW^{※4}の役割と配置、⑦自己肯定感や非認知能力（生きる力）の醸成・健全育成、⑧庁舎横断的対

応や関係先との連携は欠かせない。加えて、学校教職員や市役所職員の働き方改革やワーク・ライフ・バランスを鑑みるとSSW常駐体制を早急に整えることが得策であると考え。予算措置も含めた可否、以上について伺う。

答 ①小中学生計 472 人である。②定期的に家庭訪問を行い、オンライン授業の振り返りなど学びを保障している。③アンケート調査^{※5}では、小学5年生 23 人、中学2年生 18 人、高校2年生 17 人の計 58 人である。④教職員の日々の見守り等を行っている。⑤担当のCWが庁内の関係部署等と情報共有し、課題等を包括的に把握し、必要な支援への働き掛けを当事者に寄り添い重層

的に行う。⑥SCは5人配置し、児童生徒の心理面にアプローチする。SSWの配置はないが、児童生徒の環境に注目し、福祉的な支援等を行う。⑦まず合理的配慮により、本人に考える時間を作り出す。SOSの出し方を再度確認し、学校生活全般での自己肯定感の向上を図り、自信がついて将来への希望が持てるよう支援する。⑧県のSSW事業を今後も最大限活用し、問題に対処する。次年度予算については、体制づくりと合わせて、関係部局と協議・検討していく。



指導課HPより

※1 CW…ケースワーカー ※2 SW…ソーシャルワーカー ※3 SC…スクールカウンセラー ※4 SSW…スクールソーシャルワーカー
 ※5 アンケート調査…古河市社会福祉協議会に委託したヤングケアラー支援体制強化事業の一環として、令和7年度に小学5年生・中学2年生・高校2年生の計 3,297 人に実施した